

# のだネット通信



中核地域生活支援センター のだネット（千葉県委託事業・野田健康福祉圏域）

TEL 04-7127-5366 / FAX 04-7127-5367

〒270-0235 野田市尾崎840-32 / E-mail noda-net.kusunoki@nifty.com

## ☆地域医療・在宅医療の充実支援事業報告☆

前回の「のだネット通信」でお知らせしました地域医療・在宅医療の充実支援事業は地域フォーラムで一区切りとなりました。

今後、この事業の受託の有無に関わらず、医療機関・居宅介護支援事業者等と連携を深め、地域のネットワークの一層の構築に努めます。

今後とも、ご指導とご協力をよろしくお願い致します。

この事業にご協力頂いた全ての方々に、感謝申し上げます。



### 第2回学習会

3月6日開催

千葉リハビリテーションセンターの理学療法士である

岩本圭右氏を講師にお迎えし、「重症心身障害者へのリハビリテーション」というテーマで講演をして頂きました。

日常生活の中での姿勢や食事での注意が必要な点についてお話がありました。最後に「本人と親が安心して暮らせることが大事で、リハビリはその先にあるものと考えている。まず、安心して暮すため、在宅生活を支える資源・制度を利用していくことが大事」という言葉が、印象的でした。

### 地域フォーラム 3月26日開催

休日にも関わらず、野田市健康福祉部長の渡辺隆氏が足を運んで下さり、ご挨拶を頂戴することができました。

シンポジウムでは、この事業でモデルケースとなっていたいただいたお母様より、生ま

れてから現在までの歩みの中で、昼夜逆転した本人への対応の大変さや医療的ケアが必要な事で起こる困難、そして、本人の成長の中で感じる喜び等、感動的なお話がありました。

本人が入院中の病棟の看護師長より「家族の退院希望に対し、病院・長期療養施設が地域在宅サポート体制と連携をとり、いかに活用できる『地域の社会資源』を見つけられるか」が課題として挙げられました。

訪問看護ステーションの看護師より、事例を通して、介護者の負担の軽減や医療体制の整備が必要だと語られました。

第1回学習会でも講演頂いた千葉リハビリテーションセンターの石井先生からは「既成の制度や事業では支援しきれない障害児者を



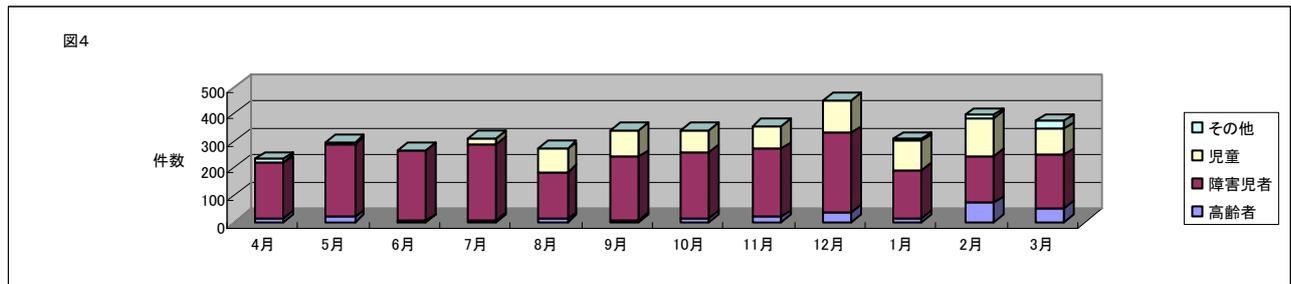
支援するため、手作りの体制を模索するうちに本当に必要な事業や制度がきっと育っていく『実態先行制度後追い』という力強いお言葉を頂きました。

## 【平成 17 年度事業報告】

※年間の実人数は194人です

### ☆分野別相談者数☆

|      | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 合計   |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 高齢者  | 14  | 17  | 3   | 5   | 11  | 8   | 16  | 18  | 35  | 16  | 69  | 49  | 261  |
| 障害児者 | 202 | 268 | 261 | 280 | 172 | 230 | 241 | 250 | 292 | 174 | 172 | 197 | 2739 |
| 児童   | 6   | 0   | 0   | 24  | 85  | 100 | 81  | 84  | 123 | 107 | 144 | 95  | 849  |
| その他  | 9   | 7   | 1   | 2   | 4   | 2   | 2   | 3   | 1   | 9   | 9   | 31  | 80   |
| 合計   | 231 | 292 | 265 | 311 | 272 | 340 | 340 | 355 | 451 | 306 | 394 | 372 | 3929 |



### ☆相談内容☆

#### 障害者手帳・障害福祉サービス受給者証の取得の支援

受給者証を使つての短期入所等、福祉サービスの利用の援助。手帳取得については障害の軽い方への支援も行っています。

#### ケース会議

特別支援教育コーディネーターとの連携によって、家族と学校側との間に入り問題解決に向けての支援をする等、関係機関と連携をとって個別の支援を検討しています。

#### 就労支援

ハローワークや障害者職業センターと連携を図つたことで、合同面接から就職へと結びついた方や、職業訓練校に入学された方もいました。



### ☆コーディネーターが考える、のだネットの今後の課題☆

☆ 東葛地区には重症心身障害児者が入所できる施設や病院がないのが現状です。「東葛地区に重心施設をつくる会」の働きかけによって、数年後には生活施設が開設する予定です。

関係市、関係機関等と連携をとり、ネットワークの構築に努めます。

☆ 精神障害の分野では、昨年小規模通所授産施設が開設し、また既存の作業所や、健康福祉センターとの連携もあり、対応してきていますが、家族会に入っていない方や幼い子どもを抱えた母親(うつ・パニック障害)が気軽に相談できる機関がないのが今後の課題と考えています。

☆ 介護保険が改正され、介護度やサービスの変更で戸惑う高齢者が増えると予想されます。地域での相談機関として、今後も支援して行きたいと思っています。

※ のだネットは24時間365日体制で相談を受けています。但し夜間等は転送電話でお受けします。

## 祝 ひばり 6月開所おめでとうございます

これまで準備を重ねてこられた社会福祉法人「はーとふる」が知的障害者更生施設（通所）「ひばり」を6月2日（金）に竣工式、6月5日（月）に開所式を迎えられます。

なお、6月3、4日10：00～15：30に地域の皆様に一般公開しています。

住所：野田市船形310番地 電話：04-7127-3847



## グループホーム「かりんず」紹介

平成18年4月より、1名の方が入居しています。現在入居希望の方等が体験宿泊を始めています。

このグループホームは知的障害を持つ方が世話人と共同で、家庭的な雰囲気大切に、地域の中で生活をしています。

ご利用希望の方は「指定居宅介護支援事業所 かりん」までご相談下さい。

連絡先：04-7127-8225 担当 石川さん

住所：野田市岩名2-16-10



## 子育て応援隊開催

7/21（金）10：30～13：00「いただきますとごちそうさまの集い」をテーマに「ひばり」「お～い船形」（園芸福祉ファーム）を会場に開催します。

園芸収穫祭も同時に行われますので、ぜひご参加下さい。

<実行委員会参加団体及び個人>

NPO法人ゆう&みい様、NPO法人子育てネットワークゆっくっく様、加藤 満子様、飯島様（エルコープ）、のだネット（事務局）



## 就労関係情報

### <障害者職場実習事業> 野田市商工課より

手帳を交付されている障害者を、職場実習として5日以上受け入れた事業所に対し障害者1人につき、事業主に2万円の奨励金を支払い、障害者が就業可能となる職場を増やすとともに障害者雇用の拡大につなげようとするものです。

### <ピック・ハート就労支援センター> 5月8日より

障害者の就業や基礎訓練、実習の相談に乗って頂けます。詳しくは、直接お問い合わせ下さい。住所：柏市柏1-1-1（ファミリー柏3F）電話：04-7168-3003

### 編集後記

平成18年度も、社会福祉法人いちいの会が「中核地域生活支援センター」を受託いたしました。今後ご意見ご指導の程よろしくお願いたします。

（のだネットスタッフ：山本・金城・佐々木・五十嵐・西野）

## 18年度の初めに当たって

所長 山本 進

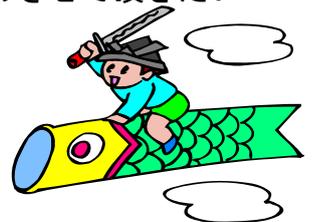
陽春の候を迎え、皆様方には御清祥のこととお慶び申し上げます。「のだネットも」県の正式承認を受け、新年度の活動へと一步を踏み出したところです。

のだネットにおける昨年度の相談件数は、延べ3,929件にのぼりました。就労や生活支援等の具体的な援助に結びついたものも少なくありませんが、これも「のだネット」一人の活動によるものではなく、関係者、関係団体・機関・行政等多くの皆様のご協力とネットワーク力によるものと感謝申し上げます。

さて、昨年末に事務所を川間駅直近の好立地の場所に移転することができ、足の便も随分良くなったのではないかと思います。お近くにお寄りの折には、是非お立ち寄りください。

また、18年度は新たに職員を相談員として迎え、就労支援を中心に活動してもらうことになっております。さらに、職員の一人は社会福祉士資格を取得したことにより、在宅障害児（者）コーディネーターを拝命し、気持ちを新たにしているところです。

年度途中になりますが、10月からはグループホーム支援ワーカーの配置も決まっています。職員の充実は、とりもなおさず事業内容の充実が期待されていることに他なりませんので、スタッフ一同これまで以上に気持ちを引き締めて務めさせて頂きたいと思っております。



### 【事業計画】

平成18年度は既存の福祉関係機関、権利擁護機関をはじめ、市町村、児童相談所、教育機関、NPO法人、地域の当事者や当事者を支援するグループとも連携して、一層の迅速な問題解決を目指していく。

更に、潜在的なニーズを掘り起こし、当事者のエンパワメント、既存機関の活性化、新たな地域資源の開発をとおして、当初の目的を達成させるために積極的な活動をしていく。

当事者の視点に立った活動、当事者のアドボカシー（代弁）に重点をおいた活動を心がける。

また、他圏域の中核地域生活支援センターと連携、研修を深め、より密接な福祉ネットワークの構築に努める。

### ●児童部会を立ち上げ、同時に講演会を開催いたします●

平成18年5月19日（金）

第1部 児童部会第1回会議（14：00～15：00）



第2部 講演会（15：15～16：45）講師 栗原 直樹氏（さいたま市児童相談所所長）

## 「埼玉県・さいたま市における児童虐待48時間対応の現状と今後について」

会場：野田市総合福祉会館 第一会議室＜講演会へは当日参加でも大丈夫です＞